

日本缶詰協会創立80周年式典挙行される

(社)日本缶詰協会創立80周年記念式典が11月6日、パレスホテル(東京・丸の内)において、会員・賛助会員、関係団体、来賓等400余名の多数の出席者を得て挙行された。

式典は午後2時30分より、80周年記念事業実行委員長水垣宏隆氏の「開会の辞」で幕を開け、小瀬昉会長の挨拶の後、各表彰者の表彰式に移り、農林水産大臣感謝状(6名)、農林水産省総合食料局長感謝状(7名)の授与が中尾総合食料局次長より行われ、日本缶詰協会小瀬会長より功労者感謝状(4名)の贈呈および永年勤続者(288名)の表彰が行われた。

続いて、中尾昭弘農林水産省総合食料局次長の臨席を得て、農林水産大臣の祝辞と島村宜伸衆議院議員ならびに原田令嗣衆議院議員の祝辞があった。

式典は、日本缶詰協会喜岡副会長の「閉会の辞」をもって終了した。

式典終了後、記念小冊子「缶詰業界の歩みと団体の活動」について、日本缶詰協会・金村業務課長より紹介が行われ、作家荒俣宏氏による「缶詰の歴史びっくり話」と題した記念講演に移った。

午後5時より懇親会が行われ、日本缶詰協会大野副会長の挨拶の後、望月義夫衆議院議員の祝辞、80周年記念事業実行副委員長多智花宏治氏の乾杯の音頭ではじまり、賑やかな歓談の後、日本缶詰協会建部副会長の発声により「三本締め」で会が締められ、午後6時30分とどこおりなく終了した。

本誌では、本号で式典での挨拶と受賞者の横顔を紹介し、次号以降で荒俣氏の講演要旨および「缶詰業界の歩み」を紹介する予定にしている。



式典

開会の言葉

創立80周年記念事業実行委員会
委員長 水垣宏隆



社団法人日本缶詰協会創立80周年記念式典の開催に際しまして一言申し上げます。

本日は、公務ご多忙のところを農林水産省より、総合食料局次長の中尾明弘様、そして食品産業振興課長の櫻庭英悦様、ほか官庁関係の皆様方、そして、多数のご来賓のご臨席をいただきました。その上に全国各地より会員、賛助会員各位のお参加を得まして、ここに盛大な式典を上げることができましたことは、主催者といたしまして、心より感謝を申し上げる次第です。本当にありがとうございます。

日本缶詰協会は昭和2年に発足以来今日まで80年の歳月を経過したわけですが、その間、我が缶詰業界は幾度か波乱と難局に直面しながらもその都度その難局を乗り越えて、今日の発展を実現してまいりました。この80周年記念式典を契機といたしまして、伝統ある我が缶詰産業が今後一層の発展を期するためにも、この式典を意義あるものといたしたいと存じおる次第です。何とぞよろしく願いを申し上げます。簡単ではございますが、開会の言葉といたします。どうぞよろしく願いいたします。

会長挨拶

社団法人日本缶詰協会
会長 小瀬 昉



開会に当たりまして、協会を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。本日は、大変ご多用の中、大勢の皆様方にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

す。また、農林水産省総合食料局中尾次長様を初めご来賓の方々にご臨席をいただきましたことを心から厚く御礼を申し上げます。

社団法人日本缶詰協会は、昭和2年の3月15日に創立してから、今年で満80年を迎えました。缶詰が誕生いたしまして200年余り、それが日本に伝わったのがおよそ130年前。国民の中に普及していった缶詰を、一つは、さらに普及させるため、二つ目には、品質向上をより図るため、ちょうど80年前日本缶詰協会が創立されました。今申し上げました二つの目的、更なる普及、品質向上という目的は現在も変わることなく、引き継がれているわけでございます。目的は二つで、変わっておりませんが、具体的に取り組むべきテーマに関しましては、時代とともに変化をしてきたという認識を持っております。その間、時代は昭和から平成に、20世紀から21世紀にと、時代変化を経てまいりました。各時代におけます出来事につきましては、お手元の資料やあるいは会場に展示した資料で紹介するとおりで、幾度かの難局がありました。何とかそれを諸先輩のお力も得て乗り越え、今日食品産業において確固たる地位を保持できていますことは、会員各位の缶詰に対する熱い思いと、そして本会に寄せられました日本製缶協、社団法人日本加工食品卸協会はじめ、各地の缶詰協会、各食品関連団体の方々のご協力のたまものと、深く感謝しております。

本日、創立80周年記念式典を開催するに当たりまして、業界の発展に格別にご貢献された功労者の方々へ感謝を申し上げ、また、長年にわたり業界に精励された永年勤続の皆様を表彰申し上げる機会を得ましたことは、心からの慶びとするところであります。

加えて、創立80周年にちなんで、業界の組織強化と育成にお力添えをいただいたの方々に対して、農林水産大臣および総合食料局長より感謝状が授与されることになりました。お手元のしおりに受賞の方々を紹介して、お祝いとそして感謝の意を表する次第でございます。

現在、缶詰、びん詰、レトルト食品等を取り巻く状況には厳しいものがございます。食品業界に共通することですが、食の安心、安全の問題、企業としての倫理性、信頼性の向上の問題、少子高齢化と人口減少、環境問題

やりサイクルの問題 原料あるいは資材価格の高騰など、問題は山積しております。日本缶詰協会は五つの方針を出し、取り組んでおります。まず、安心、安全の確保、そして、技術および品質の向上、更なる普及活動、食品法規制への対応、そして有益で的確な情報提供、これらについて積極的に取り組んでいくことが、そして質の向上を図ることが、これらの問題を解決していくことにつながっていくと考えております。お客様にとっての缶・びん詰、レトルト製品の価値向上なくして、業界の発展はないと考えておるわけです。本日の記念式典が、これまでの歩みを振りかえり、そして今後の発展を目指す新たなスタートとなることを祈念いたします。

最後に、皆様方のご健勝とご発展を祈念するとともに、今後も本会に対してのご支援を賜りますよう、お願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

来賓祝辞



農林水産大臣 若林正俊
(代読・中尾昭弘農林水産省総合食料局次長)

社団法人日本缶詰協会創立80周年記念式典の開催に当たり、一言お祝い申し上げます。

貴協会は、昭和2年に創設され、爾来、今日まで缶詰業界の中核的な団体として、我が国食品業界の発展に大きく貢献してこられました。その長年にわたるご功績に対し、深く敬意を表します。

また、本日、晴れて表彰を受けられた方々をはじめ、お集まりの皆様には日頃から缶詰業界の発展にご尽力を頂き、厚く感謝申し上げます。

さて、缶詰が始めて我が国で商業生産されたのは、明治10年と伺っておりますが、缶・びん詰、レトルト食品は、まさに我が国の食品産業の歴史そのものであります。消費者のニーズにいかに対応していくのかの努力の歴史であり、加工食品の牽引役としての役割を果たしてきたものと認識しております。

缶・びん詰、レトルト食品は、常温で流通や保存が可能であり、また、利便性、栄養価等に富んだ優れた加工食品であることから、災害時にも重要な役割を果たしております。

本年7月の新潟県中越沖地震を始め、災害が発生した際には、貴協会のご協力を賜るとともに、缶詰業界の皆様からも多くの支援物資をご提供いただいたところであり、改めて心より感謝申し上げます。

昨今、食品業界におきましては、原材料費や原油価格の高騰等への対応、食品の信頼確保に向けた企業のコンプライアンスの徹底など、取り組むべき課題は山積していると存じます。

貴協会におかれましては、これまでも、缶・びん詰、レトルト食品フェアの開催による市場活性化や缶のリサイクルなどの環境問題に対しまして、積極的に取り組んでこられました。今後とも、長年蓄積されたご経験を活かされ、業界の更なる飛躍のため、ご尽力頂くことを期待しております。

最後に、貴協会の更なる発展と本日ご列席の皆様のご健勝を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞

生活の安心感を担う



衆議院議員 島村宜伸

社団法人日本缶詰協会におかれましては、晴れて創立80周年の輝かしい節目をお迎えになり、きょうは小瀬会長を先頭にご関係の皆様が一堂に会して、このように盛大な祝賀の式典が持たれましたことを、心からお慶び申し上げます。あわせて、長年のご功績により、大臣そして局長、会長から特に選ばれて感謝状等をお受けになられた受賞者の皆様に心からの祝意を表したいと思います。

皆様の協会が発足されたのが昭和2年。その後も、昭和初期の経済恐慌、あるいは戦前、戦中の本当に物不足時代、配給統制の厳しかった時代等を我々は想起するわ

けてございますが、戦後社団法人として認可を受けられた後の昭和21年以降も、大変な物不足時代、あるいは社会が非常に物騒で混乱した時代を、今でもいろいろ思い浮かべております。そういう中であって、皆様は皆様のお仕事を通じて社会的使命をきちんと果たしてこられたその功績は大変大きいものがあります。

日本の国は、世界で一番質のいい、一番ぜいたくな食事を我々はいただいておりますが、その実力は、自給率の低下という厳しい状況にあります。となれば、平素からどのように食料を保存し、有事に備えるか、また、生活の利便と安定を確保するかということになります。皆様の担われる缶詰、びん詰、あるいは最近のレトルト食品まで含めまして、すべてのことで皆さんのお仕事というのは極めて重要な立場に立たれておられます。

また、その一方では、日本は地震あるいは台風による災害が毎年のように起きており、大変な厳しい自然環境の中に立っていますが、そういうときにも、皆さんのおつくりになるいろんな製品がどれだけ我々の生活の安心感を守っているか。また、現実に我々の食生活というものに寄与する、一番の基礎となっているか。皆さんもさぞかし誇らしい思いでお仕事をなさっておられると思っております。そういう中で、皆さんの責めに帰さない、例えばBSEの問題などが発生いたしますと、本当に思わぬところから大きな経営上の打撃を受けられるということも、忘れられないことです。

私も、たまたま閣僚経験をしている最中にBSE問題などいろいろありましたが、平成13年の10月から全頭検査に入って、今までに734万頭も調査をしたということです。日本人はことさらに衛生観念が発達していて、みんなが安全、安心を強く求めるということにおいては、非常にすばらしい国民性ではありますが、その一方では最近の不当表示のように、いろんな問題がどんどん出てきております。これらをあまり厳密にやっていると、ただでさえ日本人は食料のむだをし過ぎるという国際的な非難がありますが、そちらのほうの問題にも抵触してくるわけでありまして。私が閣僚在任中に調べましたら、全部を足して約4,000万人分の食料をむだにしているという勘定になりました。食をむだにしないという観点か

らすると、やはり無視できない問題になるわけです。そういう事々を我々はよく考えながら、皆さんご自身が仕事の上で、真っ当に働いている人がちゃんと報われるようになっていただきたいし、行政の側でも迅速に対応し、また来るべきいろんな危険等については、十分な意を用いながら、相ともどもまた新しい90周年、100周年に向かって、さらに国民の期待に応えていかなければいけない、きょうは大事な、大事な80年の節目と言って言い過ぎではないだろうと思います。我々も皆様の機微に応じてどのようにでもお引き回しを願います。私は今党の側の食品産業関係のいわば責任者をいたしておりますので、いろいろお聞かせいただきまして、いろんな角度から我々をお引き回し願って、皆さんにご納得いただく、これからの新たなる意欲に満ちた経営というものを実現していただきたく、今後のご発展を心から祈るものでございます。心を込めてこの80周年を寿ぎ、皆様の新しい更なるご躍進を祈念申し上げまして、ご挨拶といたします。

祝辞

食品の輸出

衆議院議員 原田令嗣



日本缶詰協会の創立80周年記念式典、まことにおめでとうございます。長年日本の缶詰業界の発展にご尽力をいただき、そして日本の食品産業の発展のためにご貢献いただいた皆様に本当に心よりお祝いを申し上げたいと思います。

私の父原田昇左右も皆さんに長い間お世話になりました。特に缶詰のODAの輸出においては、皆さんと力をあわせて、尽力をさせていただきました。私も今食品産業議員連盟の一員として中国や韓国、そして今アメリカやヨーロッパへの食品の輸出、日本がこれから食料をどうやって輸出をしていくか、というようなことでいろいろやっております。

特に日本食は今大変なブームになっているわけですが、そういう中で、缶詰業界もどういう形でこれからの未来を切り開いていけるのか、皆さんといろいろ勉強をさせていただきながら、全力を上げて努力をしてまいりたいと思います。皆様のますますのご発展、そして皆さんのご健勝をお祈りいたしまして、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。本日は、本当におめでとうございます。

祝辞

国際貢献と缶詰



衆議院議員 望月義夫

皆様、本日は、缶詰協会の80周年、大変おめでとうございます。

缶詰協会は、実は私も非常に縁があります。私の地元は静岡県の清水でございまして、有名な缶詰の会社の方達といつもやりとりをさせていただいておりますが、今ほど食料に関して安心、安全ということを声を大にして言わなくてはいけないときはないのではないか、というふうに思っています。まさに安全、安心、国民のために缶詰を提供していただいている缶詰業界でございます。今後ともご発展されますよう、お祈りさせていただきます。

ただ、今は、原材料が石油等から高くなっています。そういった意味では、皆さんにも相当いろんな影響が出



懇親会会場

ているのではないかと。我々は、そういった意味で、そこから辺をしっかりと押さえながら、政治をやっていかなければいけない、というふうに思っておりますので、今後ともぜひご指導いただきたいと思っております。ODAなどでも、我々も外務省にもっとどんどん使え、少なくなるなんて何事だというようなことを言っております。我が国がいかにかすぐれているか、外国に宣伝するには缶詰が一番いいのではないかと、実はそんな話も外務省で何回も言っていました。そのとおりだという意見と、国連のほうでは、同じ値段だったら、おかげみたいなものでもいいじゃないかと、それだったら量がどれくらいでも、薄めていけば、使えるんだから、そのほうがいい、というような話があります。でも、我が国が国際貢献をしているんだという意味では、缶詰が一番ではないのかなと我々は思っております。そういう意味では、我が国が誇りを持って勧められる缶詰業界の皆さんでございます。今後のますますの発展を心からお祈りさせていただきます。ご挨拶にかえさせていただきます。

閉会の言葉



社団法人日本缶詰協会
副会長 喜岡浩二

本日は、日本缶詰協会の創立80周年記念式典にご来賓の方々、そして会員、賛助会員企業各位の皆様、大勢ご出席をいただきまして、まことにありがとうございました。

現在、食の安全、安心にかかわる問題が、毎日のように取り上げられております。品質に対するお客様、消費者の要求水準は時代とともに変わってまいります。更に高くなってまいります。日本缶詰協会は、今までもそしてこれからも日本の食の安全、安心の確保のために大きな使命、役割を担っておるというふうに存じております。今日ご出席の皆様、ご関係の皆様のお一層の日本缶詰協会に対するご支援、ご協力をお願い申し上げます。

受賞者の横顔

農林水産大臣感謝状 上野 幸雄
武井 建登
池上 準司
水井 壽光
後藤 康雄
三林 憲忠

総合食料局長感謝状 中 勝彦
大口 淳一
山本 嘉一
伊藤 嘉彦
石川 元昭
岡本喜代嗣
中川 貴由

功労者感謝状 廣田 慎吾
山本幾太郎
小出 孝之
廣田 正

〔 農林水産大臣感謝状 〕

感 謝 状

あなたは、永年にわたり、社団法人日本缶詰協会の要職にあって、業界の育成向上に努め斯業の発展に寄与するところまことに大なるものがありました。

よって、社団法人日本缶詰協会創立80周年記念式典にあたり、感謝状を贈り謝意を表します。

平成19年11月6日

農林水産大臣 若林正俊



上野幸雄

日興食品株式会社
代表取締役社長



武井建登

紀州食品株式会社
代表取締役会長



池上準司

興津食品株式会社
代表取締役会長



水井壽光

寿高原食品株式会社
代表取締役社長



後藤康雄
はごろもフーズ株式会社
代表取締役会長



三林憲忠
ヤマモリ株式会社
代表取締役社長

〔 総合食料局長感謝状 〕

感 謝 状

あなたは、永年にわたり、社団法人日本缶詰協会の要職にあつて、業界の育成向上に努め斯業の発展に寄与するところまことに大なるものがありました。

よつて、社団法人日本缶詰協会創立80周年記念式典にあたり、感謝状を贈り謝意を表します。

平成19年11月6日

農林水産省総合食料局長 岡島正明



中 勝彦
津田商店株式会社
取締役会長



大口淳一
株式会社アイカン
取締役会長



山本嘉一
磯じまん株式会社
代表取締役社長



伊藤嘉彦
天狗缶詰株式会社
代表取締役社長



石川元昭
アルプス食品株式会社
代表取締役社長



岡本喜代嗣
岡本食品株式会社
代表取締役社長



中川 貴由
 中利缶詰株式会社
 代表取締役社長

〔 功勞者感謝状 〕



廣田 慎吾
 東洋製罐株式会社
 元・代表取締役会長
 功績：製罐業務に精励し業界の
 発展に貢献



山本 幾太郎
 ホテイフーズコーポレーション株式会社
 取締役名誉会長
 功績：缶詰製造に尽力



小出 孝之
 株式会社桃屋
 代表取締役会長
 功績：びん詰製造に尽力



廣田 正
 株式会社菱食
 相談役
 功績：缶詰の販売拡大に尽力

30年以上永年勤続表彰

表 彰 状

貴殿は缶・びん詰，レトルト食品業務に30年以上の長年にわたり従事せられ，我が国缶詰産業の発展に寄与せられた功績は，実に他の模範となるものであります。

よって本協会創立80周年を機として，記念品を贈呈し茲に表彰いたします。

平成19年11月6日

社団法人 日本缶詰協会
 会 長 小 瀬 昉